

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700163		
法人名	医療法人 徳寿会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	徳島県吉野川市鴨島町内原432番地		
自己評価作成日	令和4年10月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

4つのユニットが平面上にあり廊下やホールが広い作りになっている為、ユニットの出入口を開放し利用者様が自由に行き来し交流が図りやすいようにしている。
日々の活動も充実させ楽しく生き生きとした生活が送れるように工夫すると共に、家庭的な雰囲気作りと、話に耳を傾ける対話を大切に寄り添うケアを心がけている。コロナ禍の為、感染対策をとりながら季節を感じられるような行事や日々のレクリエーションを大切にし取り組みを継続している。
医療面においては、医療機関が併設しており診療科目も充実している為、希望時や必要に応じた診療が受けられたり、夜間・日祝においても医師、看護師と連携を図り素早く対応が行えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同一法人の運営する医療機関や他サービス施設等が併設し、医療や災害時等の協力体制を築いている。4つのユニットが同じフロアにあり、利用者が自由に行き来でき、開放的な雰囲気がある。“話・和・輪”という理念を掲げ、生活のなかで利用者と職員がともに取り組むことを大切にしている。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、地域の子どもたちとプレゼントのやりとりをしたり、行事を計画したりして、交流を続けている。利用者一人ひとりの希望に応じて、自宅に必要な物を取りに帰ったり、法事等に参加したりできるよう工夫しつつ、支援している。重度化や終末期において、利用者とのふれあいや声かけを大切にし、あたたかい支援に努めている。緊急時や夜間帯の連携体制を整備し、利用者や家族等の希望にそった支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念・介護理念を業務開始前に唱和し、理念の意識づけを行っている。話の傾聴や和やかな雰囲気意識しケアの実践を行っている。	事業所は、全職員で話しあい、作成した理念を掲げている。理念は、事業所内に掲示したり、毎朝、職員間で唱和したりして、共有化を図っている。定期的に、理念の見直しを行っている。新人職員には、オリエンテーションで理念について説明し、理念に基づいた支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域行事への参加は行えなかったが、児童発達支援事業所の子どもたちが敬老のお祝いに来てくれたり、市の小学生がクリスマスプレゼントを作成し送ってくれるなどの交流を図っている。	事業所では、感染症(コロナ等)の流行下においても、地域の児童発達支援事業所や小学校の子どもとプレゼント等をやりとりするなどして、交流を図っている。地域の図書館を利用するなど、日ごろから交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方やご家族様から介護保険や認知症についての相談があれば受ける等、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染者数が落ち着いている時にはできる限り開催に向けて努力している。前年度は1回事業所内で開催とし、他5回は書面とし手紙や来訪時に活動等へのご意見を頂き、事業所内での話し合いをもとに議事録を作成、活動報告書と共に家族様へ送付している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、各委員からの意見について職員間で話しあい、議事録を作成・報告している。感染状況に応じて、集合型の会議を行うなど、各委員から意見を得て、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入退居の報告やその時々課題等を相談している。また市が主催する会議や研修会等に参加するなど協力関係を築いている。	管理者は、毎月、市の担当窓口を訪問し、実績報告等を提出している。その際に、事業所の状況等を伝え、助言を得るなど、協力関係を築いている。また、地域包括支援センターからも、入居相談を受けたり、情報を得たりして、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を3ヶ月に一回開催し、その時々状況に応じた話し合いを行い拘束や抑圧感のないケアに取り組んでいる。又、定期的に勉強会を全スタッフに向けて行っている。	事業所では、定期的に身体拘束廃止委員会や身体拘束に関する研修を開催している。委員会等のなかで、心理的な拘束についても職員間での共有化を図っている。帰宅願望のある利用者には、会話を大切にし、気分転換を図るなど、閉塞感を感じることがないように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は市の高齢者、虐待防止ネットワーク協議会に参加している。また、事業所内での研修会や時事話題に取り上げられている事を議題として話し合いを行い、虐待の防止に努めている。職員のストレスケアのために適宜配置替えも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を行い、理解が深められるよう取り組んでいる。成年後見制度活用の希望がある場合には管理者が対応しているが、他スタッフにも書類等を見聞きする機会が持てるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	医療連携体制やリスク、重度化や看取りの方針等、事業所としての方針を詳しく説明を行っている。介護保険法の改正に伴う変更がある場合には改めて、説明を行い同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営や活動についてのアンケートを送付し出された意見を職員間で話し合い、運営に反映させている。また、日頃から利用者様と関わる時間を大切に、何でも話しやすい関係性づくりを心掛けている。	事業所では、日ごろの利用者とかかわりのなかで意見や要望を把握している。家族等については、アンケートを実施したり、来訪時に聞いたりして、意見等を把握している。把握した意見等は、職員間で検討し、利用者の希望で行事を行うなど、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを大切にしている。活動や運営に関する意見については、職員間で都度話し合ったり、内容によっては法人全体の連絡会議で報告している。	管理者は、日ごろから職員とコミュニケーションを図り、意見や提案を引き出している。職員会議等で意見を聞きつつ、個別に相談を受ける機会も設けている。出された意見等は、職員間で話しあったり、法人に伝えたりして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間2回の人事考課を行い面談の場を設けている。職員が向上心を持って無理なく業務に取り組めるよう、労働環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため、動画視聴による勉強会を毎月全スタッフ参加で少人数ずつ行っている。外部研修についても希望があれば参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとの情報共有を密に行っている。又、同市内のグループホームと連携を図り、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	感染状況に応じて、出来る限り、事前面談や見学が行えるようにし、本人様の意向や不安な事の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍のためか電話にて相談を頂く事が多い為、状況に応じて少しでも見学において頂けるよう柔軟に対応している。又、事業所として行える対応をわかりやすく伝えるとともに、不安な事があればいつでもご連絡頂けるようお伝えし、安心感を持って頂けるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前には担当ケアマネージャーやソーシャルワーカー、かかりつけ医と連携を図り情報を元に支援の提案や相談、対応方法を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中での会話や一緒に活動を行う事を大切にしている。又、活動後には感謝の意を必ず伝えるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの様子や出来事を毎月個別のお便りを送付している。また、コロナ禍で自由に来訪いただけないこともあり、電話の取次ぎや、行事等の写真、本人が作った作品をお便りと一緒に送るなど工夫している。状況に応じて面会も検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人からの手紙や電話の取次ぎを行い関係が途切れないように努めている。状況に応じて、ドア越し面会等柔軟に対応している。	事業所では、利用者が馴染みの人と電話や手紙のやりとりができるよう支援している。感染状況に配慮し、利用者が自宅へ必要な物を取りに帰ったり、手続きを行ったりできるよう工夫している。人が少ない時間帯に法事に参加できるよう支援するなど、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇活動や家事活動では声をかけあい協力し合っている。又、自分ではなかなか出来ない人には出来る人が声をかけてくれるなど、自然と家庭的な雰囲気になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも併設病院に入院中であればお見舞いに出掛けたりとしている。また、退居後でも、何かあれば相談できる関係性を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らしていけるよう、生活歴や会話の中から趣味や嗜好の把握に努め、表出が難しい方には生活歴や共に過ごす中で感じたり知り得た事を基にスタッフ間で共有し検討をしている。	職員は、利用者とのコミュニケーションを大切に、思いや意向の把握に努めている。何ごととも利用者と一緒に取り組むことで、好きなことや興味のあることを把握している。意思の表出が困難な利用者には、表情等から本人本位に検討している。把握した内容は、職員間で共有し、支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様から、プライバシーに配慮しながらこれまでの暮らしや生活歴などを伺い把握していく事で、その人への理解に繋げていけるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る力や生活リズムを大切にしている。心身が落ち着いている時には、出来る力や分かる力を発見していけるように一緒に活動するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやアセスメントを計画作成者と介護職員と一緒に話し合い意見を出し合いながら行っている。本人様や家族の意向については、日々の関わりや、電話や来訪時に確認し、介護計画に反映させるようにしている。	事業所では、利用者や家族、医師等の意見を反映した介護計画を作成している。計画には、利用者の趣味等も取り入れている。定期的に計画の見直しやモニタリングを行うほか、利用者の心身状況の変化に応じた見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことやエピソードなどはユニット毎の日誌と個別記録には詳しく残すようにしている。 また、出勤時には、ユニット毎の日誌を必ず確認し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状態や家族様の状態に合わせて、必要であれば受診の付き添い介助を行っている。 又、コロナ禍と言う事もあり、他病院への受診が難しく予約変更の意向が聞かれた際には予約の変更など関係各所との調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の図書館からの本や紙芝居の貸し出しがあり、様々な本を楽しむ事が出来ている。又、市役所からは広報も送付してくれていることにより、町の様子を知る事ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期診察を付き添いに行っている。診療科目に応じて、入居前からのかかりつけ医への通院や訪問診療を継続して受けられるよう医療機関と情報共有し関係を築いている。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。総合病院等の受診は、家族等の協力を得て支援している。利用者の状況を詳しく記載した書類を作成し、家族や医療期間等と情報を共有している。協力医療機関と24時間の連携体制を整備し、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医療機関の看護師と連携を図り、早期対応を心がけている。コロナ発生時および入院時には看護師の協力があり、必要な看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し、立ち合いにて情報提供をすると共に、早期退院に向けて家族様や医療機関、ソーシャルワーカーとの連携を図り、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する研修を行っている。また、終末期や重度化した場合には、状況・状態等の変化に合わせて、安心と納得が得られるように主治医・家族様と繰り返し話し合いを行い対応を検討している。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期に関する事業所の方針を説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、利用者や家族等に意向を確認している。職員は、看取りを行う際に利用者とのふれあいを大切に、あたたかい支援に努めている。医療機関と連携し、意向に添うことができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	酸素ボンベの準備、セッティング、使用方法を看護師に指導を受けたり、吸引器の準備の仕方や急変や事故発生時の連絡(報告の仕方)について定期的に確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と水災害を想定した避難訓練を実施している。又、防災マップやユニットごとの避難経路を掲示し、定期的に全職員が確認している。地元消防団との協力体制も構築している。	年3回、火災や水害を想定した避難訓練を実施している。日ごろから、予告なしで地震避難訓練を行い、利用者とともに対応力を身につけている。地元消防団との協力体制も整えている。また、備蓄を整備し、炊き出し訓練を行うなどして、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット内で報告や伝言を伝えなければならない時には、固有名詞を使わないようにしている。排泄の確認は一人である際に小さな声で行っている。トイレ時・入浴時には必ず扉を閉めたり、可能な限り同性介護となるように配慮している。	職員は、申し送りの際に、利用者の名前をイニシャルで伝えるなど、プライバシーに配慮している。排泄や入浴支援の際には、さり気ない声かけを行ったり、信頼関係のある職員や同性職員が介助を行ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの際には、いくつかの選択肢を準備し、その日の参加者(利用者様)で決めている。また、食べたいお菓子や飲み物等、自己決定できる場面を作り、ゆっくりと決定を待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の開始時間は決まっているが、個々に合わせて自分のペースで食事をしたり、入浴日は一人一人の体調に合わせて、週2~3回入浴出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時には本人様の好む服を職員と一緒に選んだり、鏡の前で化粧水をつけたり髪形がセット出来る様にさり気なく櫛や化粧水を手元に準備するようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立を伝えて食事への楽しみを持ってもらったり、季節の味覚を楽しめるような旬の食材での話題提供を行っている。又、コーヒーなどの嗜好品を飲用出来るようにしている。	事業所では、炊飯を行い、栄養バランスの整った食事を提供している。家族から差し入れを受けて、漬け物や赤飯を作るなどしている。また、おやつづくりの際には、利用者にてできることで役割を担ってもらうなど、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量のチェック表を基に、摂取量が少ない方には医療・栄養課・家族様と相談しながら栄養補助食品や嗜好品をすすめて、バランスが取れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・食後に口腔ケアの声掛けし、口腔内の観察を行っている。義歯や口腔内に不具合がみられた際には、歯科往診を依頼している。口腔ケアが困難な方には、ガーゼでの拭き取りなどで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に個々の排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行っている。トイレ使用時には羞恥心やプライバシーに配慮し、少し離れて見守りを行い、トイレでの排泄が出来るように支援している。	事業所では、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員2人で介助するなどして、可能な限りトイレでの排泄を支援している。自宅にいる時は、オムツを使用していた利用者も、支援により、トイレで排泄ができるようになるなど、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を基に、便秘傾向の方には乳製品・果物・水分をすすめたり、適度な運動を取り入れ、個々に応じた便秘対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時や曜日を固定せず、一人一人の生活リズムに合わせた入浴を行っている。又、同性職員が対応することで安心感を持ってもらえるようにしている。	事業所では、利用者の希望に応じた入浴ができるように支援している。重度化した利用者も浴槽につかることができるよう職員2・3人で支援することもある。利用者の心身状況に応じて、清拭や足浴を行うなど、臨機応変に支援している。利用者の好みの入浴剤やシャンプー、石鹸を持ち込むことで、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝に向けて照明の調整や声量を小さくするなど、落ち着く雰囲気づくりを行っている。空腹や口渇が聞かれた際には、温かい飲み物を勧めリラックスできるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導による薬剤師との連携を図り、個々に服薬している薬の目的や副作用についての留意点を把握し、体調の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野での活動をすすめ、意欲的に取り組めるよう、利用者様が主体・先導できるような環境づくりに工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍での感染対策により外出が困難である中で、天気の良い日にベランダに出たり、窓から外を眺め季節を感じてもらえるよう工夫している。	事業所では、日ごろからベランダに出て、洗濯物を干すなど、外気にふれる機会を設けている。定期的に、敷地内の売店に買いものに出かけている。感染対策を講じて、一時的に自宅に帰るなど、利用者の希望に応じて、外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が少額の金銭を自己管理し、本人様・家族様が安心できるよう相談しながら行っている。又、可能な方は、自分で通信販売に電話注文し支払いまで自分で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの写真入りの手紙や贈り物は自室に飾り目に付きやすいように工夫している。又、家族様や友人から電話があった際には、取り次ぎをし、ゆっくりと会話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで季節に合った壁画づくりに取り組み季節が感じられる雰囲気づくりに工夫している。	共用空間は、広々としていて、大きな窓から地域の景色を眺めることができる。所々にイスを配置するなど、広い事業所内で休むことのできる場所を設けている。職員は、匂いに配慮し、換気や掃除を行い、清潔感を保っている。ご飯の炊ける匂いや季節の花の匂いなど、時間や季節を感じることができる空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの食卓のほか、気の合う利用者様同士でソファで座ったり、和室で畳に座ったりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた布団や家具を持ち込めるようにしており、家族様が持参した家族写真を飾り、安心感がもてる環境づくりに努めている。	居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた家具や調度品、趣味の物等を持ち込んでもらっている。掃除は、利用者と職員が一緒に行うなど、落ち着いて過ごすことのできる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室に分かりやすい表示・位置に目印を付けている。ソファ前に立ち上がりやすいよう滑り止めマットを付けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念・介護理念を業務開始前に唱和し、理念の意識づけを行っている。話の傾聴や和やかな雰囲気意識しケアの実践を行っている。	運営理念・介護理念を業務開始前に唱和し、理念の意識づけを行っている。話の傾聴や和やかな雰囲気意識しケアの実践を行っている。	運営理念・介護理念を業務開始前に唱和し、理念の意識づけを行っている。話の傾聴や和やかな雰囲気意識しケアの実践を行っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域行事への参加は行えなかったが、児童発達支援事業所の子どもたちが敬老のお祝いに来てくれたり、市の小学生がクリスマスプレゼントを作成し送ってくれるなどの交流を図っている。	コロナ禍で地域行事への参加は行えなかったが、児童発達支援事業所の子どもたちが敬老のお祝いに来てくれたり、市の小学生がクリスマスプレゼントを作成し送ってくれるなどの交流を図っている。	コロナ禍で地域行事への参加は行えなかったが、児童発達支援事業所の子どもたちが敬老のお祝いに来てくれたり、市の小学生がクリスマスプレゼントを作成し送ってくれるなどの交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方やご家族様から介護保険や認知症についての相談があれば受ける等、地域貢献に努めている。	地域の方やご家族様から介護保険や認知症についての相談があれば受ける等、地域貢献に努めている。	地域の方やご家族様から介護保険や認知症についての相談があれば受ける等、地域貢献に努めている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染者数が落ち着いている時にはできる限り開催に向けて努力している。前年度は1回事業所内で開催とし、他5回は書面とし手紙や来訪時に活動等へのご意見を頂き、事業所内での話し合いをもとに議事録を作成、活動報告書と共に家族様へ送付している。	感染者数が落ち着いている時にはできる限り開催に向けて努力している。前年度は1回事業所内で開催とし、他5回は書面とし手紙や来訪時に活動等へのご意見を頂き、事業所内での話し合いをもとに議事録を作成、活動報告書と共に家族様へ送付している。	感染者数が落ち着いている時にはできる限り開催に向けて努力している。前年度は1回事業所内で開催とし、他5回は書面とし手紙や来訪時に活動等へのご意見を頂き、事業所内での話し合いをもとに議事録を作成、活動報告書と共に家族様へ送付している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入退居の報告やその時々課題等を相談している。また市が主催する会議や研修会等に参加するなど協力関係を築いている。	毎月の入退居の報告やその時々課題等を相談している。また市が主催する会議や研修会等に参加するなど協力関係を築いている。	毎月の入退居の報告やその時々課題等を相談している。また市が主催する会議や研修会等に参加するなど協力関係を築いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を3ヶ月に一回開催し、その時々状況に応じた話し合いを行い拘束や抑圧感のないケアに取り組んでいる。又、定期的に勉強会を全スタッフに向けて行っている。	委員会を3ヶ月に一回開催し、その時々状況に応じた話し合いを行い拘束や抑圧感のないケアに取り組んでいる。又、定期的に勉強会を全スタッフに向けて行っている。	委員会を3ヶ月に一回開催し、その時々状況に応じた話し合いを行い拘束や抑圧感のないケアに取り組んでいる。又、定期的に勉強会を全スタッフに向けて行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は市の高齢者、虐待防止ネットワーク協議会に参加している。また、事業所内での研修会や時事話題に取り上げられている事を議題として話し合いを行い、虐待の防止に努めている。職員のストレスケアのために適宜配置替えも行っている。	管理者は市の高齢者、虐待防止ネットワーク協議会に参加している。また、事業所内での研修会や時事話題に取り上げられている事を議題として話し合いを行い、虐待の防止に努めている。職員のストレスケアのために適宜配置替えも行っている。	管理者は市の高齢者、虐待防止ネットワーク協議会に参加している。また、事業所内での研修会や時事話題に取り上げられている事を議題として話し合いを行い、虐待の防止に努めている。職員のストレスケアのために適宜配置替えも行っている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を行い、理解が深められるよう取り組んでいる。成年後見制度活用の希望がある場合には管理者が対応しているが、他スタッフにも書類等を見聞きする機会が持てるようにしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を行い、理解が深められるよう取り組んでいる。成年後見制度活用の希望がある場合には管理者が対応しているが、他スタッフにも書類等を見聞きする機会が持てるようにしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を行い、理解が深められるよう取り組んでいる。成年後見制度活用の希望がある場合には管理者が対応しているが、他スタッフにも書類等を見聞きする機会が持てるようにしている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	医療連携体制やリスク、重度化や看取りの方針等、事業所としての方針を詳しく説明を行っている。介護保険法の改正に伴う変更がある場合には改めて、説明を行い同意を得るようにしている。	医療連携体制やリスク、重度化や看取りの方針等、事業所としての方針を詳しく説明を行っている。介護保険法の改正に伴う変更がある場合には改めて、説明を行い同意を得るようにしている。	医療連携体制やリスク、重度化や看取りの方針等、事業所としての方針を詳しく説明を行っている。介護保険法の改正に伴う変更がある場合には改めて、説明を行い同意を得るようにしている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営や活動についてのアンケートを送付し出された意見を職員間で話し合い、運営に反映させている。また、日頃から利用者様と関わる時間を大切に、何でも話しやすい関係性づくりを心掛けている。	運営や活動についてのアンケートを送付し出された意見を職員間で話し合い、運営に反映させている。また、日頃から利用者様と関わる時間を大切に、何でも話しやすい関係性づくりを心掛けている。	運営や活動についてのアンケートを送付し出された意見を職員間で話し合い、運営に反映させている。また、日頃から利用者様と関わる時間を大切に、何でも話しやすい関係性づくりを心掛けている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを大切にしている。活動や運営に関する意見については、職員間で都度話し合ったり、内容によっては法人全体の連絡会議で報告している。	日頃からコミュニケーションを大切にしている。活動や運営に関する意見については、職員間で都度話し合ったり、内容によっては法人全体の連絡会議で報告している。	日頃からコミュニケーションを大切にしている。活動や運営に関する意見については、職員間で都度話し合ったり、内容によっては法人全体の連絡会議で報告している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間2回の人事考課を行い面談の場を設けている。職員が向上心を持って無理なく業務に取り組めるよう、労働環境の整備に努めている。	年間2回の人事考課を行い面談の場を設けている。職員が向上心を持って無理なく業務に取り組めるよう、労働環境の整備に努めている。	年間2回の人事考課を行い面談の場を設けている。職員が向上心を持って無理なく業務に取り組めるよう、労働環境の整備に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため、動画視聴による勉強会を毎月全スタッフ参加で少人数ずつ行っている。外部研修についても希望があれば参加できるようにしている。	コロナ禍のため、動画視聴による勉強会を毎月全スタッフ参加で少人数ずつ行っている。外部研修についても希望があれば参加できるようにしている。	コロナ禍のため、動画視聴による勉強会を毎月全スタッフ参加で少人数ずつ行っている。外部研修についても希望があれば参加できるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとの情報共有を密に行っている。又、同市内のグループホームと連携を図り、情報交換を行っている。	同法人のグループホームとの情報共有を密に行っている。又、同市内のグループホームと連携を図り、情報交換を行っている。	同法人のグループホームとの情報共有を密に行っている。又、同市内のグループホームと連携を図り、情報交換を行っている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	感染状況に応じて、出来る限り、事前面談や見学が行えるようにし、本人様の意向や不安な事の把握に努めている。	感染状況に応じて、出来る限り、事前面談や見学が行えるようにし、本人様の意向や不安な事の把握に努めている。	感染状況に応じて、出来る限り、事前面談や見学が行えるようにし、本人様の意向や不安な事の把握に努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍のためか電話にて相談を頂く事が多い為、状況に応じて少しでも見学において頂けるよう柔軟に対応している。又、事業所として行える対応をわかりやすく伝えるとともに、不安な事があればいつでもご連絡頂けるようお伝えし、安心感を持って頂けるよう対応している。	コロナ禍のためか電話にて相談を頂く事が多い為、状況に応じて少しでも見学において頂けるよう柔軟に対応している。又、事業所として行える対応をわかりやすく伝えるとともに、不安な事があればいつでもご連絡頂けるようお伝えし、安心感を持って頂けるよう対応している。	コロナ禍のためか電話にて相談を頂く事が多い為、状況に応じて少しでも見学において頂けるよう柔軟に対応している。又、事業所として行える対応をわかりやすく伝えるとともに、不安な事があればいつでもご連絡頂けるようお伝えし、安心感を持って頂けるよう対応している。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前には担当ケアマネージャーやソーシャルワーカー、かかりつけ医と連携を図り情報を元に支援の提案や相談、対応方法を検討している。	サービス開始前には担当ケアマネージャーやソーシャルワーカー、かかりつけ医と連携を図り情報を元に支援の提案や相談、対応方法を検討している。	サービス開始前には担当ケアマネージャーやソーシャルワーカー、かかりつけ医と連携を図り情報を元に支援の提案や相談、対応方法を検討している。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中での会話や一緒に活動を行う事を大切にしている。又、活動後には感謝の意を必ず伝えるように心がけている。	毎日の生活の中での会話や一緒に活動を行う事を大切にしている。又、活動後には感謝の意を必ず伝えるように心がけている。	毎日の生活の中での会話や一緒に活動を行う事を大切にしている。又、活動後には感謝の意を必ず伝えるように心がけている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの様子や出来事を毎月個別のお便りを送付している。また、コロナ禍で自由に来訪いただけないこともあり、電話の取次ぎや、行事等の写真、本人様が作った作品をお便りと一緒に送るなど工夫している。状況に応じて面会も検討している。	暮らしの様子や出来事を毎月個別のお便りを送付している。また、コロナ禍で自由に来訪いただけないこともあり、電話の取次ぎや、行事等の写真、本人様が作った作品をお便りと一緒に送るなど工夫している。状況に応じて面会も検討している。	暮らしの様子や出来事を毎月個別のお便りを送付している。また、コロナ禍で自由に来訪いただけないこともあり、電話の取次ぎや、行事等の写真、本人様が作った作品をお便りと一緒に送るなど工夫している。状況に応じて面会も検討している。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人からの手紙や電話の取次ぎを行い関係が途切れないように努めている。状況に応じて、ドア越し面会等柔軟に対応している。	知人や友人からの手紙や電話の取次ぎを行い関係が途切れないように努めている。状況に応じて、ドア越し面会等柔軟に対応している。	知人や友人からの手紙や電話の取次ぎを行い関係が途切れないように努めている。状況に応じて、ドア越し面会等柔軟に対応している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇活動や家事活動では声をかけあい協力し合っている。又、自分ではなかなか出来ない人には出来る人が声をかけてくれるなど、自然と家庭的な雰囲気になっている。	余暇活動や家事活動では声をかけあい協力し合っている。又、自分ではなかなか出来ない人には出来る人が声をかけてくれるなど、自然と家庭的な雰囲気になっている。	余暇活動や家事活動では声をかけあい協力し合っている。又、自分ではなかなか出来ない人には出来る人が声をかけてくれるなど、自然と家庭的な雰囲気になっている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も併設病院に入院中であればお見舞いに出掛けたりとしている。また、退居後も、何かあれば相談できる関係性を継続している。	退居後も併設病院に入院中であればお見舞いに出掛けたりとしている。また、退居後も、何かあれば相談できる関係性を継続している。	退居後も併設病院に入院中であればお見舞いに出掛けたりとしている。また、退居後も、何かあれば相談できる関係性を継続している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や生活を通して、生活歴や趣味・嗜好を尋ねる事により、本人様の希望やニーズの把握に努めている。	一人ひとりの認知症状や理解度に合わせ、一律な対応にならないようにしている。帰宅願望や不安感に傾聴し寄り添っている。	何気ない会話や些細な出来事までを注意深く観察し思いに寄り添えるように本人様の視点に立って考えながら話し合っている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様や家族様より聞き取りを実施し、それを基にフェイスシートやアセスメントを作成し、情報把握に努めている。	日常会話の中で「若い時はどんなお仕事をしていたの?」等と尋ね、会話を広げ回想法を図っている。洗濯もの畳みや自室のタンス整理など、力に応じ行う事で生活リハビリに繋げている。	本人様や家族様より生活歴や生活環境等の情報を聞き取りフェイスシートを作成し、これまでの暮らしについて把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様のニーズに沿った日課計画表を作成し、心身の状態や残存機能の把握、またそれを記録にして残す事によりスタッフ間でも現状を把握し、情報把握に努めている。	作成した日課計画表を基に、一人ひとりの生活リズムを把握するようにしている。居室、ホールの落ち着いた所で過ごしてもらい、できないこと(助けてもらいたい事)を都度介助できるようにしている。	一人ひとりの一日の生活の様子を記録に残し、心身状態や生活リズムの把握に努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを施行し、本人様や家族様にも話を聞く事により、その希望を反映できるような介護計画を作成している。	本人様のニーズを汲み取り、家族様には適時、体調の報告などを行っている。体調の変化に合わせてその時に適切なケアを行えるようにアイデアを出し合い反映させている。	本人様、家族様から意向や希望を聞き、より良く暮らしていく為に何が必要であるかを職員間で話し合い検討し、現状に沿ったケアプランの作成を行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を反映した個別の記録を行っている。その記録に基づきながら、モニタリング、アセスメントを行い介護計画の見直しに活用している。	介護計画に沿ってケアを実践し、日々の様子を個別に記録している。その記録を職員が確認する事で日々のケア方法を共有し、より良いケアに繋げている。	日常の様子や言葉をそのまま記録に残し、些細な変化や気づきを職員間で情報共有し実践し、状況に応じてケアプランの見直しを行っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他病院にて発行された処方せんもスムーズに処理できるよう他病院や調剤薬局と連携を図っている。コロナ禍の受診の際は予約の変更など関係各所と相談・調整を行っている。	他病院受診時に受診の付き添いや状況に応じて介護タクシーの手配を行ったりしている。	受診の付き添いや必要物品の買い物の代行等、家族様が対応できない際、その都度柔軟に対応し支援している。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の図書館からの本や紙芝居の貸し出しがあり、様々な本を楽しむ事が出来ている。又、市役所からは広報も送付してくれていることにより、町の様子を知る事ができている。	市の図書館からの本や紙芝居の貸し出しがあり、様々な本を楽しむ事が出来ている。又、市役所からは広報も送付してくれていることにより、町の様子を知る事ができている。	市の図書館からの本や紙芝居の貸し出しがあり、様々な本を楽しむ事が出来ている。又、市役所からは広報も送付してくれていることにより、町の様子を知る事ができている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期診察を付き添いにて行っている。診療科目に応じて、入居前からのかかりつけ医への通院や訪問診療を継続して受けられるよう医療機関と情報共有し関係を築いている。	月1回の定期診察を付き添いにて行っている。診療科目に応じて、入居前からのかかりつけ医への通院や訪問診療を継続して受けられるよう医療機関と情報共有し関係を築いている。	月1回の定期診察を付き添いにて行っている。診療科目に応じて、入居前からのかかりつけ医への通院や訪問診療を継続して受けられるよう医療機関と情報共有し関係を築いている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医療機関の看護師と連携を図り、早期対応を心がけている。コロナ発生時および入院時には看護師の協力があり、必要な看護が受けられるようにしている。	併設医療機関の看護師と連携を図り、早期対応を心がけている。コロナ発生時および入院時には看護師の協力があり、必要な看護が受けられるようにしている。	併設医療機関の看護師と連携を図り、早期対応を心がけている。コロナ発生時および入院時には看護師の協力があり、必要な看護が受けられるようにしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し、立ち合いにて情報提供をすると共に、早期退院に向けて家族様や医療機関、ソーシャルワーカーとの連携を図り、情報共有に努めている。	入院時には情報提供書を作成し、立ち合いにて情報提供をすると共に、早期退院に向けて家族様や医療機関、ソーシャルワーカーとの連携を図り、情報共有に努めている。	入院時には情報提供書を作成し、立ち合いにて情報提供をすると共に、早期退院に向けて家族様や医療機関、ソーシャルワーカーとの連携を図り、情報共有に努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する研修を行っている。また、終末期や重度化した場合には、状況・状態等の変化に合わせて、安心と納得が得られるように主治医・家族様と繰り返し話し合いを行い対応を検討している。	看取りに関する研修を行っている。また、終末期や重度化した場合には、状況・状態等の変化に合わせて、安心と納得が得られるように主治医・家族様と繰り返し話し合いを行い対応を検討している。	看取りに関する研修を行っている。また、終末期や重度化した場合には、状況・状態等の変化に合わせて、安心と納得が得られるように主治医・家族様と繰り返し話し合いを行い対応を検討している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	酸素ボンベの準備、セッティング、使用方法を看護師に指導を受けたり、吸引器の準備の仕方や急変や事故発生時の連絡(報告の仕方)について定期的に確認を行っている。	酸素ボンベの準備、セッティング、使用方法を看護師に指導を受けたり、吸引器の準備の仕方や急変や事故発生時の連絡(報告の仕方)について定期的に確認を行っている。	酸素ボンベの準備、セッティング、使用方法を看護師に指導を受けたり、吸引器の準備の仕方や急変や事故発生時の連絡(報告の仕方)について定期的に確認を行っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と水災害を想定した避難訓練を実施している。又、防災マップやユニットごとの避難経路を掲示し、定期的に全職員が確認している。地元消防団との協力体制も構築している。	年2回の避難訓練と水災害を想定した避難訓練を実施している。又、防災マップやユニットごとの避難経路を掲示し、定期的に全職員が確認している。地元消防団との協力体制も構築している。	年2回の避難訓練と水災害を想定した避難訓練を実施している。又、防災マップやユニットごとの避難経路を掲示し、定期的に全職員が確認している。地元消防団との協力体制も構築している。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣、入浴時に同性の介助を希望された時には、可能な限り本人様の意向に沿えるように努めている。本人様の自尊心や羞恥心に配慮した介助を心がけている。	排便の有無を聞く際には、一人の時に小さな声で聞くなど、さり気なく確認している。排泄の介助や失敗の時には人目につかないようプライバシーに配慮しながら更衣・片付けを行っている。	入浴や排泄、更衣の際には、羞恥心に配慮した声かけやケアを心がけている。また、異性介護を好まない方には出来る限り同性介護を意識して行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を複数用意する事により、利用者様を選びやすい環境、雰囲気作りに努めている。本人様の希望に沿える事により、その上で信頼関係が築けるように努めている。	作業レクリエーションの際、するかしないかの決定も含めていくつかの選択肢を作り、選んでもらえるようにし、その上で信頼関係を築き、希望を言いやすいようにしている。	見たい番組や着たい服を選んでもらい、自己決定できるよう働きかけている。日頃の会話に耳を傾け好む事をみつけアプローチしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や散歩、おやつなど、それぞれの希望や趣味、嗜好に沿った支援が出来る様に心がけている。	基本的な流れは決まっているが、レクリエーションへの参加の有無や起床時間・就寝時間を時には決めていない為、利用者様のペースに合わせて行っている。	一人ひとりのペースに合わせて部屋でテレビを観て過ごしたり、好みのレクリエーションに参加したりと職員の都合を優先せず本人様の希望に沿ったライフスタイルを支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔、整髪、個人によっては化粧水、整髪料の使用、髭剃りが出来る様に準備している。本人の好みに合わせて、衣類が選択出来るように努めている。	(利用者に女性が多い為)起床後・入浴後に化粧をされる方や毎朝鏡を見ながら髪をといたり、クリームを付けたりと身だしなみを整え自身で選んだ服でおしゃれをすることで、生活への意欲が向上されている。	訪問美容を利用し、髪の長さを指定してもらっている。朝の更衣時には着る服も自分で選んでもらえるよう準備している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	梅干しやお茶など、自分の好みの物を自由に使ってもらったり、食事前に献立を伝える事により、食事への感心や興味、また、食事そのものを楽しんでもらえるように工夫している。	食事前にその日のメニューを伝え、食事への関心が高まるようにしている。月の誕生会などの行事の際には、季節の食べ物や盛り付けを工夫したりして楽しんでもらえるように工夫している。	毎週メニュー表をユニットの掲示板に貼り、絵や文字を書いて食に興味を持ってもらえるように工夫している。また嗜好品を家族様に依頼し持参してもらっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下や咀嚼の状態を観察しながら、本人様の状況に応じた食事形態を準備したり、家族様と連携してジュースなどの嗜好品の持参を依頼している。	病歴やその日の体調に合わせてお茶やOS-1、ポカリスエットを勧め、水分が摂れるようにしている。また、本人様の好みの物を家族様に依頼し持参してもらい、食事量の少ない時に勧めたりと工夫している。	食事、水分摂取量のチェックを行っている。摂取量の少ない方や夜間に空腹感がある方には嗜好品を勧めるなど補食ができるようにしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯のブラッシングやうがい等の口腔ケアを行えるように声かけや洗面台への誘導、口腔ケアセットの準備を行っている。義歯については夕食後に預かり、消毒洗浄を行っている。	起床時や食事後には口腔ケアの声かけを行い、誘導や準備を行っている。歯磨きが上手くできない人には、訪問歯科を活用している。	食後に口腔ケアの声かけを行い洗面所への案内を行っている。夜間は義歯を預かり洗浄消毒を行っている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握できるように努めている。日中はトイレ誘導、夜間はポータブルトイレ介助を行い、一人ひとりの残存機能を活かせる支援に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々の意向や身体機能に応じて、紙パンツや布パンツの使い分けが出来るよう支援している。	排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、適時声かけトイレへの案内を行い、排泄の確認を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などの運動を取り入れたり、乳製品などで水分補給を行うなどの工夫をしている。また、医師と相談しながら下剤や整腸剤を調整し、便秘予防に努めている。	排便チェック表を基に個々の排泄リズムを把握し、便秘がちな人にはホーム内でのウォーキングや、乳製品やスポーツドリンクでの水分補給を勧めている。	便チェック表を用いて排便の有無を確認している。毎日、体を動かす活動を取り入れている。またこまめに水分補給をすすめ1日の水分チェック表に記録している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時にはゆっくりとお湯に浸かれるようにスタッフと一対一で昔話や世間話をして、くつろげる雰囲気を提供できるように努めている。同性の介助を希望された時には可能な限り対応できるようにしている。	本人のペースに合わせて入浴を楽しめるように、時間を決めずゆっくりと入浴できるように支援している。1対1でゆっくりと話をすることで安心感・信頼感を持ってもらえるようにしている。	本人様の体調や希望に合わせて入浴を行っている。声かけに工夫が必要な方もおり、職員間で連携を図りながらすすめている。本人様の好むシャンプーやボディークリームを使用し入浴している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るように日中に散歩や体操などの活動を工夫し、寝つきが悪い時には本人様が眠れる時間が来るまで、スタッフが寄り添いながら様子を見守るようにしている。	夕方にかけて気分が落ち着いて過ごす事が出来るよう、心配事や不安を取り除いていけるように傾聴している。本人様の入眠のタイミングまで無理に臥床を勧めず、安心して眠れるまで寄り添っている。	本人様の希望や体調に合わせて臥床をすすめて休息を取り入れている。夜間に空腹が聞かれる方には嗜好品等を提供し安眠できるよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導で薬局、薬剤師と連携を図っている。また、服薬チェック表を用いて適切な服薬支援を行うと共に、処方せんや薬剤情報を管理し、いつでも確認出来るようにしている。	居宅療養管理指導で薬局・薬剤師と連携を図っている。薬の変更があった時には特に、体調・状態の変化があった際にはすぐに主治医へ報告するようにしている。	最新分の薬剤情報をファイリングし一人ひとりの薬の効能や効果、用量が分かりやすいようにしている。薬の変更があれば状態の経過観察を行っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月ごとに誕生日会を開催し、おやつでのレクリエーションを工夫している。豆ごはんなど季節の料理作りを取り入れる等、一人ひとりが楽しめるレクリエーションの提供に努めている。	図書館からの本を活用し、個々の好みに合わせて読んで楽しめる環境作りに努めている。新聞を取りたいと希望する方には家族様と相談し購読している。	洗濯物たたみや机拭きなど一人ひとりの得意な分野での役割活動を依頼している。本人様より希望がある際には家族様に相談し嗜好品を持参して頂いている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	マスクの着用や手洗い、うがいなどの感染対策を実施しながら、花見や散歩等、季節を感じて頂けるような戸外活動を可能な範囲で取り入れている。	感染対策後からは外出が出来ていないため、近隣への散歩にて外気に触れられるように工夫している。	近所の神社まで桜の花見に出かけたが、コロナ感染対策により外出は控えている。気分転換を兼ねてベランダへの散歩や短時間の日光浴を行っている。随時、家族様に面会の中止や外出を控えている事の理解を得ている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が安心して生活が出来る様に少額の所持金を持てるように家族様と相談し、自己管理が出来る様に支援している。	少額の金銭を自己管理する事で安心される方については、家族様と相談し少額を財布や巾着にて自己管理されている。さり気なく定期的に中身の確認をさせて頂いている。	家族様より預り金として少額をお預かりしている。本人様より物品購入の依頼があれば売店に買いに出かけたり家族様と相談し対応している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より希望があった時には、家族様へ電話をしたり、家族様より本人様への取次ぎ希望の電話があった時には、可能な限り、取り次ぐようにしている。	私物の携帯電話が使用困難となり、着信があっても取れない事があるため、居室にてゆっくりと話が出来る様に、掛けなおしや電話の取次ぎを行っている。	本人様希望時や家族様、友人から電話があった際には取次ぎを行いゆっくりと話が出来る様に配慮しやり取りが継続できるようにしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を表した壁画やカレンダー作りを一緒に行い、それを掲示したり、窓を開けることにより、季節の音や香りを感じられるように工夫している。	行事の写真や掲示物を貼り出しており、季節を感じられるような空間にしている。ホールの大きな窓を活用して外の景色を楽しみ、窓を開けて外気を感じ季節感を味わえるようにしている。	毎月、季節の壁画を作成し季節を感じられるようにしている。光や音によって強い刺激にならないようカーテンを程よく引き、光を調整したり、戸を開け閉めし空調の調整を行い、環境整備している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色を眺められるようにホールのソファの位置を工夫したり、気の合う利用者様同士が集い、憩いの場となるように机や椅子の位置を配慮、工夫している。	ホールや廊下などに個別に座れるソファを設置している。食事でも大勢ではなく、個別に食べることを望む方にはホールの中でも個別に食べられるように小さめの机を用意するなど対応している。	気の合う方同士の席を近づけ、接しやすいよう配慮している。独りにもなりやすいようテレビ前にソファを設置し居場所の工夫を行っている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様との思い出の写真を飾ったり、家で使い慣れた、テレビやイヤホン、孫の手を使用する事により、居室での時間も居心地良く過ごせるように工夫している。	自宅からミニ仏壇を持ってこれ毎朝ご飯とお茶をおまつりされている方や、愛犬の骨をペンダントにして身に付けている方がいたりと個々に安心して生活が送れるようにご家族様と相談しながら工夫している。	使い慣れた布団やソファを使用しても良かったり、居室に家族様との思い出の写真を飾り、居心地よく過ごせるようにしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、畳んでもらうなど、一人ひとりの出来る事を見定めつつ、その活動が安全に行えるよう、転倒等のリスクマネジメントにも努めている。	ホールのトイレに目印をつけ全員が分かるようにしている。また、トイレを認識しない方には夜間の就寝後にトイレのドアを開け電気を付けておく等、一人ひとりに寄り添って対応をしている。	お風呂やトイレ、居室が分かりやすいように大きく表示している。自分の洗濯物をたたんだり、タンスへの片付けができるよう支援している。